



2017年2月期 第3四半期業績説明

2016年11月期 連結決算概要

	金額	前期比	前期増減
グループ売上 *	79,093億円	98.6%	▲1,157億円
営業収益	42,889億円	95.0%	▲2,249億円
営業利益	2,740億円	105.0%	+129億円
経常利益	2,764億円	106.6%	+169億円
親会社株主に帰属する四半期純利益	755億円	60.2%	▲499億円

主な増減要因

営業収益	為替円高(U.S.\$1=120.98円→108.57円)、原油価格下落(ガロン売価\$2.54→\$2.13)
営業利益	SEJ・YB順調、IY改善、為替円高
経常利益	持分法投資損益の改善
親会社株主に帰属する四半期純利益	事業構造改革費用、減損損失、のれん償却、固定資産廃棄損

* グループ売上:セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.における加盟店売上を含めた数値

事業セグメント別営業利益

	金額	前期比	前期増減
連結営業利益	2,740億円	105.0%	+129億円
コンビニエンスストア	2,419億円	102.7%	+62億円
スーパーストア	123億円	-	+119億円
百貨店 (のれん償却前)	▲35億円 (▲14億円)	- (-)	▲2億円 (▲21億円)
フードサービス	2億円	31.8%	▲5億円
金融関連	389億円	103.4%	+12億円
通信販売	▲77億円	-	▲4億円
その他	31億円	83.1%	▲6億円
消去および当社	▲114億円	-	▲46億円

主要事業会社の営業利益

	金額	前期比	前期増減	既存店伸び率
セブン-イレブン・ジャパン	1,871億円	103.9%	+70億円	+1.6%
7-Eleven, Inc. (ドルベース)	594億円 (54,721万ドル)	96.6% (107.6%)	▲21億円 (+3,875万ドル)	+2.7%
イトーヨーカ堂	▲43億円	-	+100億円	▲4.1%
ヨークベニマル (ライフフーズ ^{*1} 込み)	133億円	110.8%	+13億円	+1.0% ^{*2}
そごう・西武	▲17億円	-	▲19億円	▲3.2%

*1 ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社
ライフフーズ込みの営業利益は管理上の数値

*2 既存店伸び率はヨークベニマル単体の数値

特別損失の概要

3Q累計	金額	前期増減	主な内訳
特別損失合計	1,069億円	+782億円	事業構造改革費用・のれん償却の計上減損損失の拡大等により増加
事業構造改革費用	151億円	+111億円	SS(126億円)・IY(23億円) 減損損失61億円含む
減損損失	386億円	+261億円	店舗に係る減損損失の計上 IY(155億円)・SS(120億円)
のれん償却額	334億円	+315億円	百貨店事業に係るのれん償却の計上 334億円
固定資産廃棄損	140億円	+57億円	SEJにおける第7次システムの導入に伴う 増加等
ご参考			
3Qのみ特別損失	188億円	+96億円	SEJにおける固定資産廃棄損 SSにおける転進支援 等

2017年2月期 連結業績予想（前回発表から変わらず）

	金額	前期比	前期増減
グ ル ー プ 売 上 [*]	105,000億円	98.1%	▲2,030億円
営 業 収 益	57,700億円	95.4%	▲2,757億円
営 業 利 益	3,530億円	100.2%	+6億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	800億円	49.7%	▲809億円

* グループ売上：セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.における加盟店売上を含めた数値

PL為替換算レート 17/2期予想：106.00円



補 足 資 料

コンビニエンスストア事業：実績①

セブン-イレブン・ジャパン



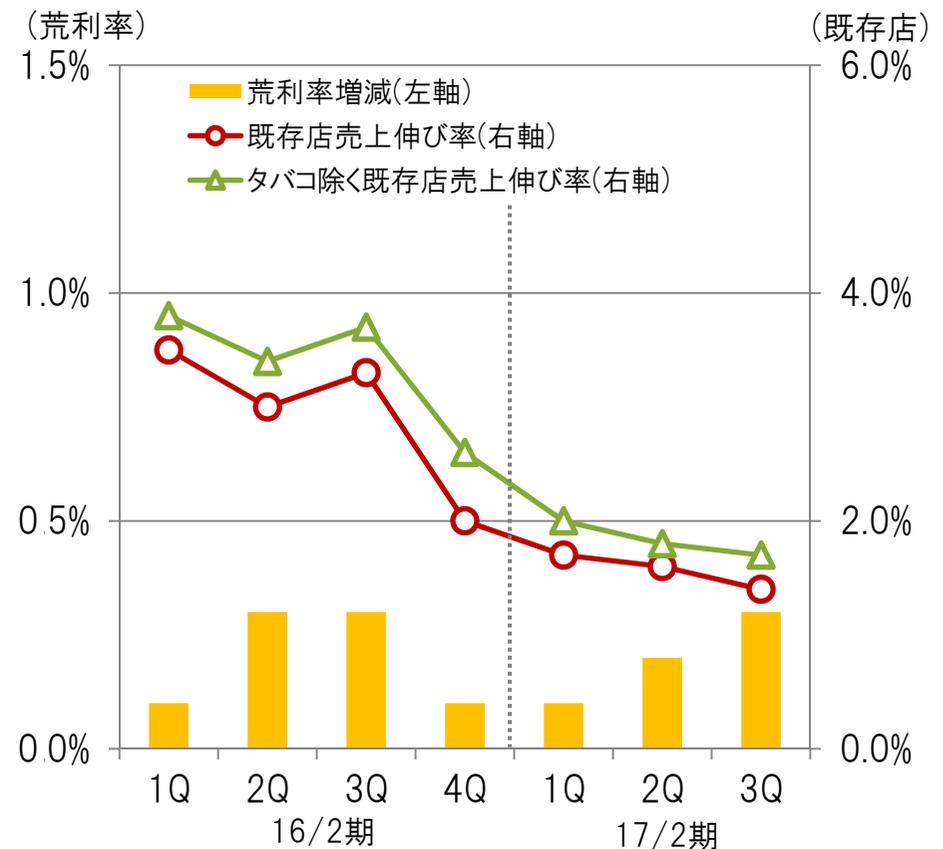
主に既存店売上と荒利率の改善により、6期連続で過去最高益を達成

	実績	前期比
営業利益	1,871億円	103.9% +70億円
既存店売上伸び率	+1.6%	
商品荒利率	31.8%	+0.2%

概況

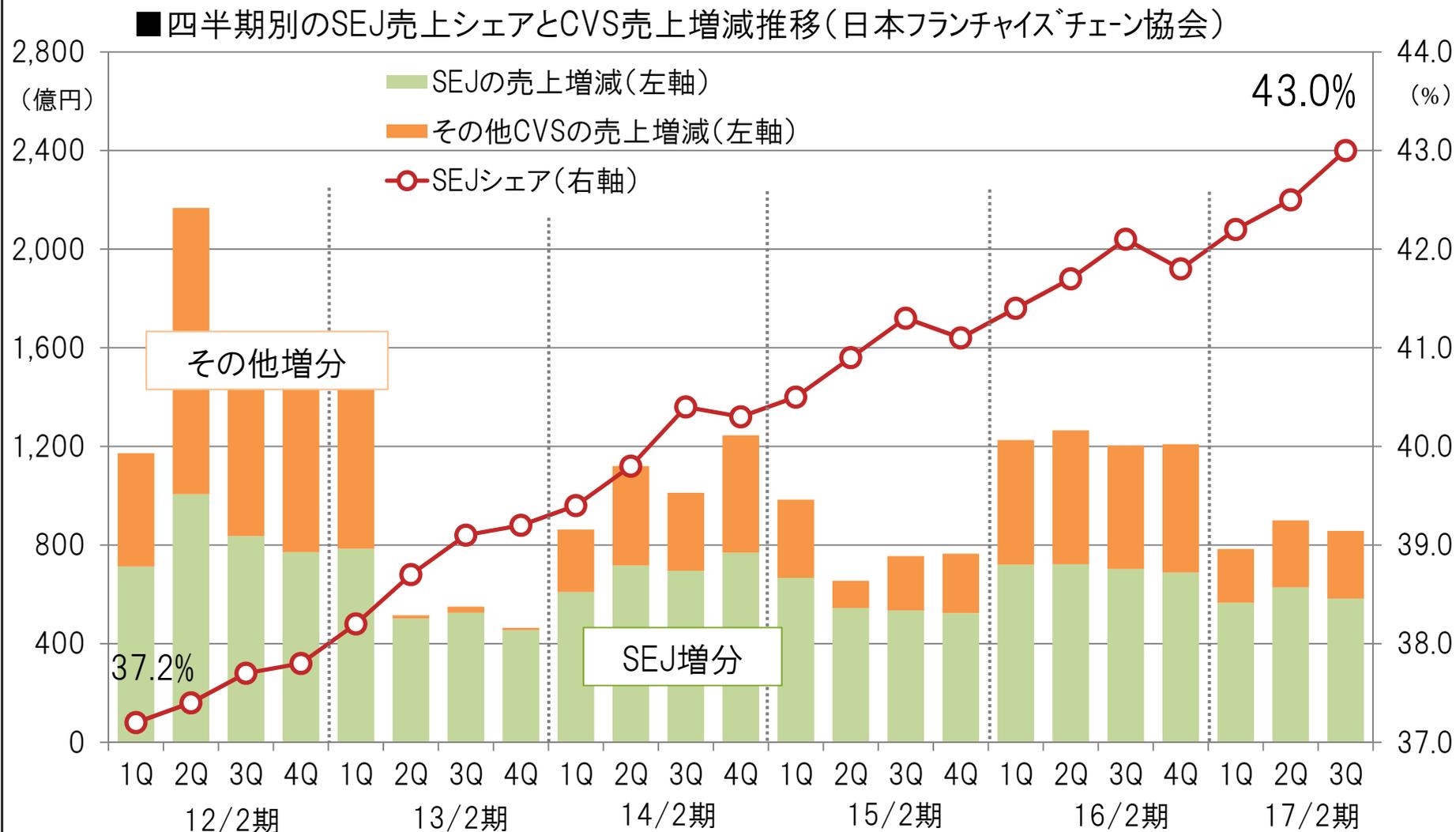
- ・既存店売上：サンドイッチ・フライヤー等の基本カテゴリの更なる品質向上が奏功し伸長
- ・荒利率：フライヤー、調理パン等のリニューアルによる販売伸長により改善
- ・営業利益：既存店売上の伸長と荒利率改善に加え、販管費の伸びを圧縮し、過去最高益を達成

■ 四半期別の推移



SEJ: 四半期別売上シェアと売上増減の推移

● 既存店売上の伸長により、売上シェアは過去最高の43.0%に拡大



(出典)JFAコンビニエンスストア統計調査月報

コンビニエンスストア事業：実績②

7-Eleven, Inc.



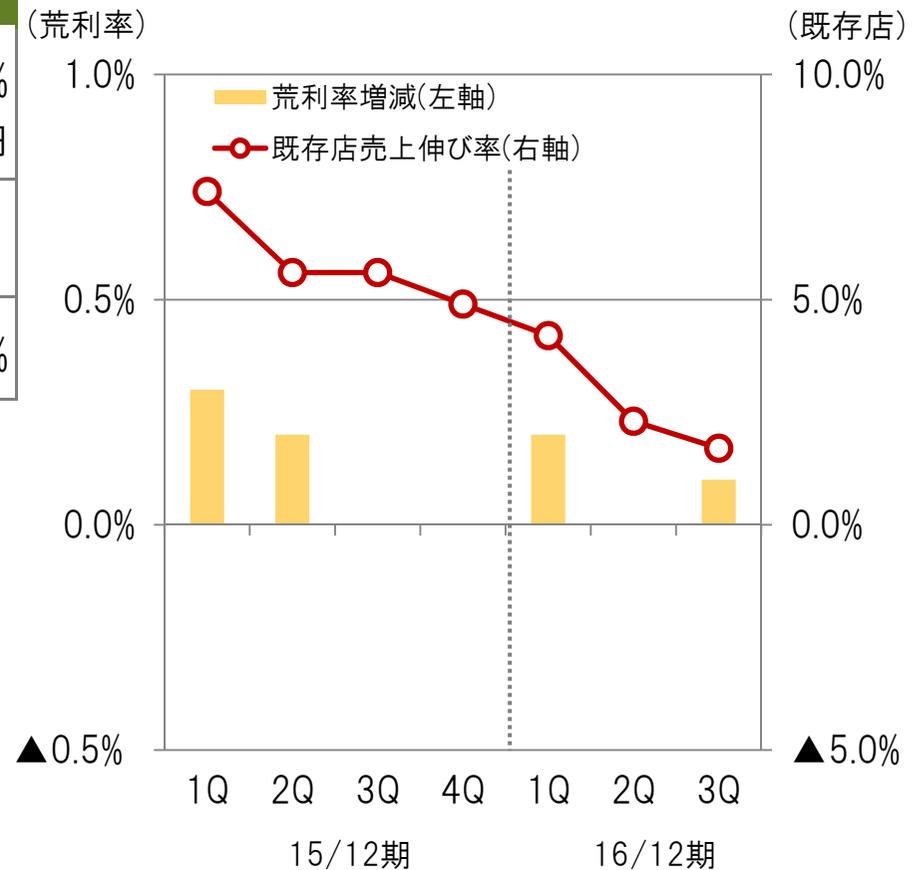
フレッシュフードの販売は好調も、為替影響や天候与件により減益

	実績	前期比
営業利益	594億円	96.6% ▲21億円
米国内既存店商品売上 伸び率(ドルベース)	+2.7%	
商品荒利率	34.9%	+0.1%

概況

- ・既存店売上 : ホットフードを中心としたフレッシュフードの売上が牽引し伸長
- ・荒利率 : ノンアルコール飲料やホット飲料の販売伸長等による改善
- ・営業利益 : 円高によるマイナス影響があり、減益(円高影響: ▲67億円)

■ 四半期別の推移



スーパーストア事業：実績①

イトーヨーカ堂



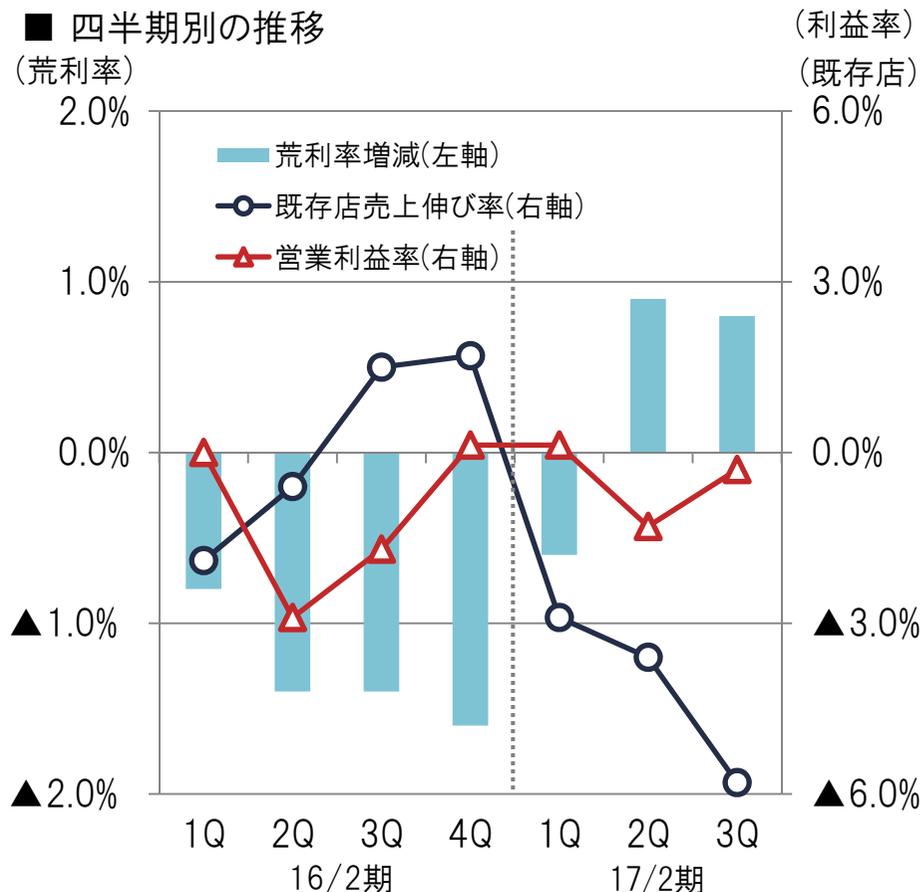
既存店売上のマイナスも、宣伝装飾費の適正化や荒利率の改善により増益

	実績	前期比
営業利益	▲43億円	+100億円
既存店売上伸び率	▲4.1%(▲3.4%*)	
商品荒利率	29.1%	+0.3%

概況

- ・既存店売上 : 宣伝装飾費や値引き等の販売促進策を見直しことで、客数に影響しマイナス
- ・荒利率 : 食品における生鮮食品等の改善と値下げロス抑制によりプラス
- ・営業利益 : 宣伝装飾費の抑制(▲116億円)や荒利率の改善等により、既存店売上マイナスを補い、増益

*SC合計の既存店売上伸び率



スーパーストア事業： 実績②

ヨークベニマル



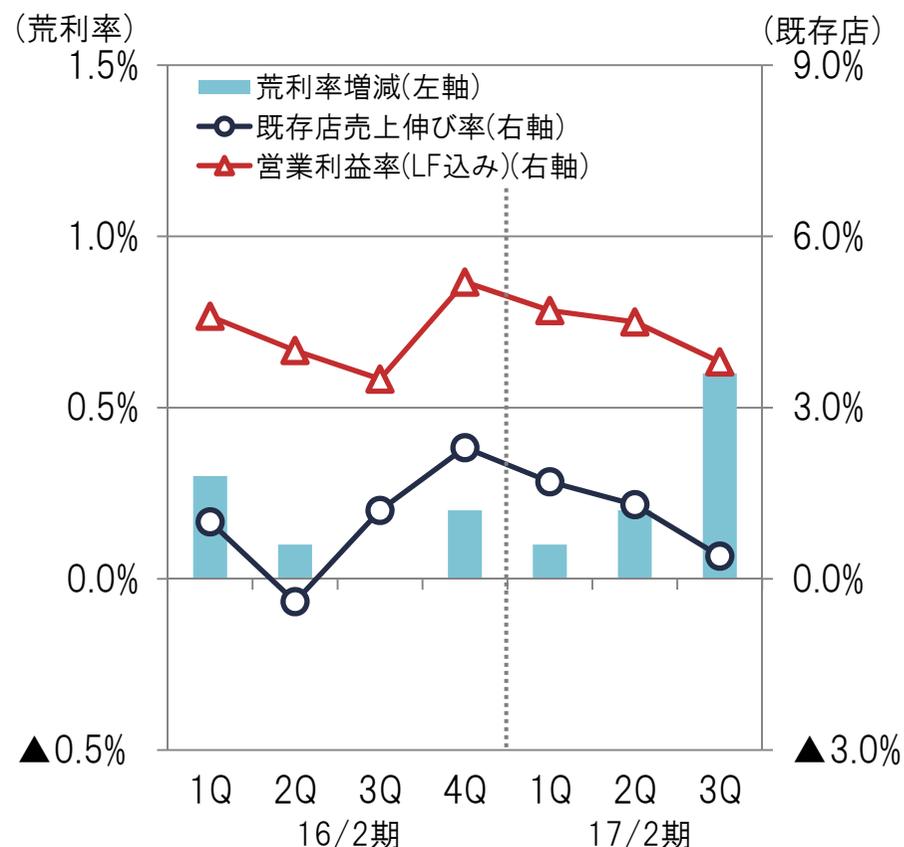
既存店売上と荒利率がともにプラス、店舗数増等に伴う経費増加を吸収し増益

	実績	前期比
営業利益	100億円	113.6% +11億円
既存店売上伸び率	+1.0%	
商品荒利率	25.7%	+0.2%
営業利益 (ライフフーズ込み)*	133億円	110.8% +13億円

概況

- ・既存店売上 : 好調な食品が引き続き全体を牽引し、前年プラス
- ・荒利率 : 主に食品の改善により前年プラス
- ・営業利益 : 既存店売上と荒利率のプラスにより増益

■ 四半期別の推移



*ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマル(YB)の店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社

(注) YB+LFの営業利益は管理上の数値です。

百貨店事業：実績

そごう・西武



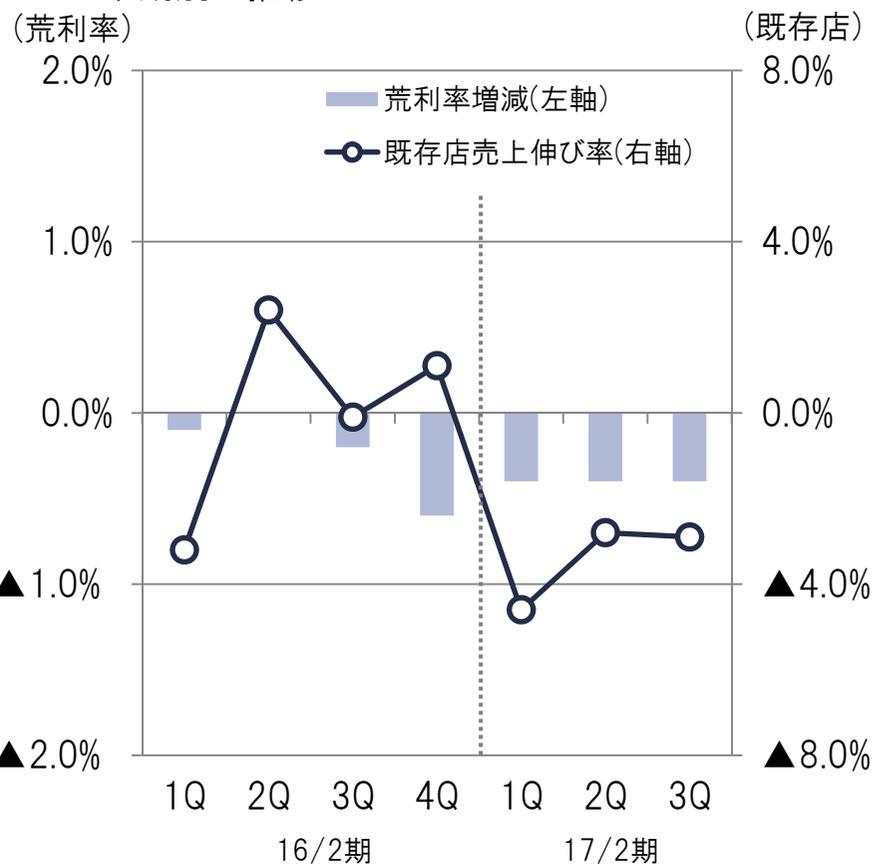
主に衣料品売上の苦戦と荒利率の悪化により減益

	実績	前期比
営業利益	▲17億円	▲19億円
既存店売上伸び率	▲3.2%	
商品荒利率	24.3%	▲0.4%

概況

- ・既存店売上：婦人服などの衣料品中心に弱含んだ結果、▲1.0% マイナス
- ・荒利率：主に、売上構成比および荒利率が高い衣料品の売上減少によりマイナス
- ・営業利益：販管費は削減したものの、衣料品を中心とした売上の減少と荒利率の悪化等により減益

■ 四半期別の推移



当社が開示する情報の中には、将来の見通しに関する事項が含まれる場合があります。この事項については、開示時点において当社が入手している情報による経営陣の判断に基づくほか、将来の予測を行うために一定の前提を用いており、様々なリスクや不確定性・不確実性を含んでおります。

したがって、現実の業績の数値、結果等は、今後の事業運営や経済情勢の変化等の様々な要因により、開示情報に含まれる将来の見通しとは異なる可能性があります。